裾野地区文化財マップ

裾野小学校 5年

① 追分石（おいわけいし）

追分石は、むかしの人が道しるべとして使っていたものです。十腰内の追分石には、「右あしゃ沢」（鯵ヶ沢）「左山道」と書かれています。この追分石を目印にして旅をしたり仕事をしたりしていたそうです。追分石の近くには古い松があり、根本がほかの所より少し高くなっています。これは一里塚（いちりづか）といい、これも旅人の目印にされていたようです。このような追分石は、今は、弘前市内に5基あります。

西浜街道（にしはまかいどう）

西浜街道は、大間越街道ともいい弘前城から高杉、鬼沢、大森、十腰内、鯵ヶ沢、深浦町大間越までの約100kmのことをさします。

天正19(1591)年弘前藩初代藩主「津軽 為信」が「豊臣 秀吉」に鷹を献上したときに通ったことで知られており、他にも2代目藩主「津軽 信枚」などが江戸への参勤交代のときに通った歴史的な道です。

② 十腰内(2)遺跡

十腰内(2)遺跡からは、猪型土製品が出土しました。猪型土製品は、2つにわれた状態で出土しました。今はしゅうふく作業をして1つになっています。

他にも動物の形をした土製品や、土器が発くつされ破そんした物はしゅうふく作業をして1つになっています。

十腰内遺跡は昭和39(1964)年の発くつ調査で、祭りと関係しているであろう石を配置した遺構が確認されました。たてあな建物跡や土坑も確認されました。

たてあな建物は、今でいう家のことで、土坑は人がほった穴のことです。

③ 巌鬼山神社

もともとは十一面観音をまつるお堂でしたが、明治6年(1873)に巌鬼山神社の本殿となりました。火事により何度か焼失した後、今の本殿が元禄4年(1691)に建てられました。

鰐口は、お堂の軒につるしてお参りのときに鳴らす大きな鐘で、慶長9年(1604)に弘前藩初代藩主津軽為信の長男信建によっておさめられました。

大杉は2本あり、高さ41m、太さは10mと8.5mで樹齢は1000年をこえると考えられています。

狛犬はよく見ると、背中でをしながら笑っている犬もあれば、表情のかたい狛犬もいます。

④ 大石神社（奥宮）

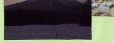
大石神社は慶長年間(1596～1615)に、津軽為信が十一面観音を勧請したことから始まると訪れています。ご神体は、巨石で、岩木山登拝口の赤倉山との境界石ともいわれています。江戸時代の旅行家、菅江真澄の「外浜奇勝」には、子育てや子宝のご利益があると書かれていて、子授けの神、安産の神として古くから信仰される神社だそうです。入り口にはたくさんのとりいがならんでいて、のぼりりゅうが飾ってあります。のぼりりゅうは願いをとどけ、くだりりゅうは願いをかなえるといわれています。

⑤ 世界遺産 大森勝山遺跡

縄文時代晩期（今から約3200年～3000年前）の環状列石（ストーンサークル）がある遺跡です。去年ついに世界遺産に登録されました。

環状列石は48.5×39.1メートルのやや楕円形に作られています。組石は大森川大石川から運ばれた安山岩が主に使われています。この環状列石は縄文時代晩期で唯一大きさなどがわかっている遺跡です。また、縄文時代のおまつりなどの移り変わりがわかる貴重な遺跡です。

大森勝山遺跡は現代の建物がほとんど見えない空間で美しい岩木山がたんのうできます。12月下旬には岩木山の山頂に沈む夕日も見られます。縄文人は高い天体観測の技術をもっていたと考えられています。



⑥ 大石神社（里宮）

・大石神社の奥宮から約3kmくらい下った現在の大森集落に作られています。

・大石神社（里宮）は3つある大石神社のうちの一つで、里宮は、今から200年ほど前から使われているそうです。神社の境内には「二十三夜」など石塔がたくさんあり、これは庚申の日という言いつたえがあったからです。その言いつたえとは、ねむっている人の体をぬけ出して閻魔様にその人の悪口を告げ口する三虫という虫がぬけ出さないためにに庚申の日はねむらないように、みんなで夜通し会食をしていました。